

目次

- まえがき……………
- 一 労働組合は、どうみられているか——意識の断層——……………二
- 二 それは、日常生活の一部となった……………二
- 三 春闘という年中行事……労務軍、今総評……組合は今や成軍に達した……温情ある社長……………三
- 四 それは、国民のあいだに浸透する……………三
- 五 「チェコ、またか」ということ……「千万のマンモス組織……外国の組織車はどのくらいか……組合は、かたといふ人たちが……大企業経営者の身え方……日経連の役割と国民党の「労働軍」……………三
- 六 組合員自身は、組合をどうみるか……………三
- 七 昔は泥仕合で運動した……組合運動はあたらしい立身出世コースにもなる……サッリマンの組合観……さまざまな意識の断層……組合は空気のよくなるものか……………三
- 八 二 日本労働組合の二大山脈——総評と同盟——……………三
- 九 一 一九四九年夏……………三
- 一〇 戦後組合運動の曲がり角……「ワッパ、ライン」の発表したも……その国家的意味……車切りブーム……九月卒会と四協労働の役割……四協労働の二つの勢力……四協の第一次切りと下山事件……第二次切りと三協事件……左翼勢力の弱……生ものこと、田代高受郎……民間企業の先頭に立つ東芝労働……世にも不思議な採用事件……三つの事件の原動力……下山・三協……松川でスリー・アット・チェンジ……共産党が敗北し……総評が生まれた……………三
- 一一 それは、どういふ布陣をしいていくか……………三
- 一二 五方の労働組合……産別別・資本系別・産業別……総評・企業連・早産……全団中央組織……………三
- 一三 総評とは、どういふ組織か……………三
- 一四 SOHOの結成十五年……戦前派指導者のカム・バック……右がかった総評の結成……左がかった労働の結成……批評勢力の消滅……別派指導者の衝突……アメリカと領軍の南とどしどし、総評……ニワトリからアヒルへ……………三
- 一五 同盟は、どうしてうまれたか……………三
- 一六 結評内部の対立……同盟の性格……新産別、中立労働とはなにか……総評も同盟も第二組合である……………三
- 一七 三 日本労働組合は、なぜ分裂するのか……………三
- 一八 企業別組合論……………三
- 一九 第一組合は、なぜできるか……………三
- 二〇 四都府の町、三都……三協労働分裂……第二組合ができると争戦は負ける……組合はなぜ分裂するのか……第二組合の苦い分……第一組合の反骨……「X・Y・Z路」……………三

一九四九年夏

2 企業別組合とは何か 三
九四パーセントは企業別組合……企業別組合は世界でも珍しい……日本は薩摩新食、外国は
労働組合……なぜ日本では、企業別組合ができたのか……ある女子労働者の手記……あちこち
って語を解す

3 企業別組合のすすむ道 三
企業別組合の発点……ホワイト・カラーが分裂の原因となる……企業別組合は、破産から早
切されてきた……経営者は企業別組合を歓迎する……社内報の役割……知らぬうちに組合員
……労働組合の階級的・民主的強化……労働者の企業意識は世代によってちがう……三代目
の意見……青年労働者の意見……企業別組合を脱却する道

4 陽のあたらぬ労働者は、どう組織されるか 六
——中小企業の問題——

1 中小企業は、なぜ悪条件なのか 六
オマセ、工場で起きたこと……日本の労働運動の奇聞……中小企業とは何か……労働者の八
割は中小企業にいる……中小企業の切捨て……大企業との賃金格差……その他の悪条件

2 中小企業労働者に、夜明けはいくくるか 六
未組織すなわち中小企業……経営者の無理解といふこと……親会社が親善であればいい……
大企業の労働者と中小企業の労働者の階級……未組織労働者の組織化……中小企業労働者の
組織化がすすむ原因……中小企業の組合づくりのむずかしさ……合資労働組合の結成……東
空ガスの下請会社の組合……大企業労働者の責任

3 中小企業の争議は、なぜこじれるのか 三
中小企業の争議は暴力化しやすい……中小企業の労・使を操縦する自治資本

5 職場の組合は、どう日常活動をするか 三
——三つの基本的権利——

1 団結権を手に入れるまで 三
三つの権利はたゞ、ただけではないのか……団結をめぐるエピソード……「匿名書き」の結集
警察法第一七条……外国の労働組合は、どう団結権をかちとるか

2 組合は、どんな権利をもっているか 三
憲法が保障する基本的な三つの権利……労働条件の最低基準を定める労働基準法……近江組
系の入部闘争……近江組系争議の本質……不当労働行為……労働委員会設置……団体交渉
権……ストライキ権……シブヤク・シブヤク……ストライキのできない人たち

3 職場の組合は、どう運営されるか 三
三つのシブヤク制……組合にはいれない人たち……その内部はどう組織されているか……大
法会費を脱んでも解決しない

6 組合が当面する諸問題——賃金・合理化—— 六
1 なにを活動の目的とするか 六
結評・問題の運動目標

- 2 大幅賃上げの問題……………一六
- 彼の側にはなにかいふものがあるが……ヨーロッパの生活……文化的最低限度の生活とは
 なにか……最低十四、五万円は必要である……資金の現状……もし労働組合がなかったら……
 ……大幅賃上げの要求……一律上げ……同一労働同一賃金……労働時間の短縮……………一六
- 3 最低賃金制の問題……………一六
- 格差という深刻な差別……最低賃金制の要求……弱者階級による最低賃金制とは……ハン
 モノの最低賃金制……………一六
- 4 「合理化」の問題……………一六
- 「合理化」とはなにか……「合理化」の歴史……現代の「合理化」……日本の労働組合は「合
 理化」競争に勝つ……「合理化」反対闘争の道……………一六
- 七 労働組合は政治活動をしてよいか——組合と政党——……………一六
- 1 それは経済闘争に専念すべきか……………一六
- デリケートな問題……労働組合の守衛範囲は……政治と経済とは切りはなせぬか……国家独
 占資本との関係……労働組合の政治的傾向……主として……という意味……イギリスアメリカ
 の経験……外国の経験はそのまま日本には通用しない……ロシアや中国の経験……問題は労働
 者がおかれた政治的條件……しかし日常活動を忘れてはならない……………一六
- 2 労働組合と政党……………一六
- 革新政党との関係……外国の専門家はどうみるか……日本の悲しき歴史……党は労働組合の
 直接関係の回り……組織と社会との関係……同盟と民社党との関係……組合は選挙の下請
 機関でよいのか……政策支持の自由……不正な進歩をとりぬく努力……………一六
- 八 国際労働運動のなかの日本労働組合……………一六
- 世界労連と国際自由労連——……………一六
- 1 国際舞台での日本の労働者……………一六
- 外国での労務の事情……国際問題に関し日本の労働者……強制労働所で感じたこと……国際
 舞台での日本労働者階級……ひんぱんにあった外国との接触……………一六
- 2 国際労働運動の二つの流れ……………一六
- 二億数千万人の組合員……二つの国際組織……世界労連の結成……国際労働運動における新
 たい戦争……世界労連の統一行動政策……国際自由労連は労働国際組織と共歩……………一六
- 3 国際労働運動のなかの日本……………一六
- 国際組織と日本の労働組合……世界労連と日本労働組合との交流……国際自由労連からは
 たらきかけ……I.M.F.・J.C.……自主独立の立場……………一六
- むすびにかえて……………一七
- なにを目標としたか……労働組合は現代のレオナルド・ダ・ヴィンチである……労働組合の
 すむ方向……日本の労働組合の未来像……労働者階級を先頭とする統一戦線……労働組合
 は人間改造と社会改造の場である……労働者は革新党である……………一七

参考文献

本文グラフ構成 赤石忠一